

地域社会における居場所の実態とそのあり方に関する研究

東野 定律（静岡県立大学経営情報学部 准教授）

藤本健太郎（静岡県立大学経営情報学部 准教授）

本研究では、居場所がどのように使われ、どのような役割を担っているのかを実際居場所を利用している利用者の調査データを分析し、居場所の役割や重要性を明確にし、今後のあり方について提言することを目的とした。具体的には、常設型「居場所」を利用されている方を対象に、「居場所」にどのような効果があるのか、常設型「居場所」づくりを進めていくためにはどのようにすればよいか等、今後求められる居場所の役割について明らかにした。

静岡県内4箇所の常設型「居場所」を利用されている利用者（242人）の調査データを分析した結果、利用者の多くは、悩みごとを相談する場所としている方もみられ、こうした内容については、地域の関連機関と連携し利用者の日常生活をサポートするなど、地域におけるセーフティネットの窓口として機能することも今後求められること。

コミュニティカフェをきっかけに利用者の地域での諸活動が活性化することも考えられることから、こうした活動を支える拠点としての役割を確立することが重要であること。といった内容が示された。

キーワード：地域社会、居場所

1. 研究背景と目的

現在、わが国では65歳以上の高齢者人口は、過去最高の3,300万人を超えており、総人口に占める高齢化率も26.0%と過去最高となった¹⁾。世帯構成で見ると、65歳以上の高齢者のいる世帯は、平成25年現在、2,242万世帯と、全世帯の44.7%を占め、なおかつ三世帯世帯は減少傾向である一方、親と未婚の子のみの世帯、夫婦のみの世帯、単独世帯といった世帯は増加傾向にあり、夫婦のみの世帯、単独世帯と合わせると半数を超える状況である²⁾。また、65歳以上の高齢者について子どもとの同居率をみると、子どもとの同居の割合は大幅に減少し2012年のデータでは、42.3%と高齢者世帯の半以下になった。

このような状況の中、近年社会問題として挙げられているのが、一人暮らし高齢者の孤立である。特に首都圏の団地での孤立による孤独死の発生や

震災などの影響による高齢者の孤立は深刻な状況であり、経済・社会の変化による社会的孤立のリスクはますます高まっているといえる³⁻⁴⁾。

一方、2006年に厚生労働省では、介護保険法の改正を伴う制度見直しが実施され、住み慣れた地域での生活の継続をベースに地域支援事業や地域包括支援センターを創設し、地域の特性に応じて多様で柔軟なサービス提供が可能となるようとして「地域密着型サービス」といった新たなサービス体系を確立することから地域生活の実現を可能とする政策がすすめられてきた。近年では、限られた医療・介護資源を有効に活用し、高齢者が可能な限り住み慣れた自宅や地域で安心して自立した生活を営めるようにする地域包括ケアシステムを構築することが、2025年までに求められることとなっており、高齢者の生活の基盤について地域を中心とした形で展開すること、地域のつながりを強くすることで対策を行うことが望まれている

る⁵⁻⁷⁾。

また、2012年の9月に閣議決定された「高齢社会対策大綱」では、社会的に支援を必要とする人々に対し、社会とのつながりを失わせないような取り組みを推進していく必要性を指摘し、一人暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で孤立することなく安心した生活を営むことができるよう、民生委員やボランティア、民間事業者などと行政が連携し高齢者の社会的孤立を防止することを定めている⁸⁾。

これらの制度背景として、地域住民がお互いの立場を超えて、地域社会で助け合いやつきあいを積極的に持つことが難しくなりつつあることや、住民が生きがいを持って安心して充実した日常生活を過ごしていくためには、地域社会における人と人とのつながりの再生・強化が必要であり、このための方策として、多様な政策課題の解決・改善を両輪で進めていかなければならないという認識があったものと考えられる。

地域での支え合いを基盤に、地域で生じた問題に対応し、その地域住民たち自身で解決する仕組み、地域で支え合う仕組みを構築するためには、地域住民の人間関係の構築や信頼関係の強化が必要不可欠であり、そのためには人との関われる場や機会を得られる「地域における居場所」が社会資源の一つとして今後期待されている⁹⁻¹¹⁾。

そこで、本研究では、居場所がどのように使われ、どのような役割を担っているのかを実際居場所を利用している利用者の調査データを分析し、居場所の役割や重要性を明確にし、今後のあり方について提言することを目的とした。具体的には、常設型「居場所」を利用されている方を対象に、「居場所」にどのような効果があるのか、常設型「居場所」づくりを進めていくためにはどのようにすればよいか等、今後求められる居場所の役割について明らかにした。

2. 研究方法

(1) 分析対象

分析したデータは、平成23年度に静岡県健康福

祉課の委託により静岡県立大学が実施した県内4箇所の常設型「居場所」を利用されている利用者(242人)の調査データである。

(2) 調査内容と分析方法

調査内容は、利用の経緯、利用状況、利用するようになって変わったこと、居場所以外の援助機関等であった。集計したデータについて、属性に関する設問について表1のようなカテゴリーを作成し、各設問をカテゴリー間の比較を行うことから、利用者の利用状況についての特徴を明らかにした。カテゴリー間の比較には主にピアソンのカイ二乗検定を行った。具体的には、利用頻度と利用者の属性を分析することから利用者の特性を把握し、次に属性ごとの利用の効果については、属性(利用頻度、年齢、家族構成、)と「利用後の周囲とのつながり」および「利用者自身の変化」の回答傾向を分析し比較した。

なお、複数回答を行った設問に関しては、設問内の各項目に対しては、該当したものはすべて選択する形式をとっていたことから、各項目については単一回答項目とみなし、「該当」以外は「非該当」として、その割合の比較を試みた。

3. 研究結果

(1) 利用者の属性

①利用者の年齢と性別

利用者の年齢は、「10歳未満」が3.3% (9人)、「10歳代」が7.4% (18人)、「20歳代」が3.3% (9人)、「30歳代」が7.4% (18人)、「40歳代」が5.8% (14人)、「50歳代」が9.5% (23人)、「60歳代」が26.0% (63人)、「70歳代」が33.5% (81人)であった。

利用者の約60%は60歳以上であった。一方、利用者の性別は、「男性」が21.1% (51人)、「女性」が75.2% (182人)である。利用者の約75%は女性であった。

④利用者の家族構成

利用者の家族構成は、「一人暮らし」が14.5% (35人)、「夫婦のみ世帯」が23.6% (57人)、「二世帯同居」が39.3% (95人)、「三世帯同居」が14.

5% (35人)、「その他」が4.1% (10人)であった。

⑤利用者の職業

利用者の職業は、「自営業・自由業」が5.4% (13人)、「会社員・公務員等給与所得者」が10.3% (25人)、「パート・アルバイト」が10.7% (26人)、「主婦・主夫」が13.2% (32人)、「学生」が9.9% (24人)、「無職」が45.5% (110人)、「その他」が0.4% (1人)であった。利用者の約45%は無職であった。

⑥利用者の居住地

利用者の居住地を施設との関係は、「施設と同じ町内会」が14.1% (34人)、「施設と同じ小・中学校区内」が24.0% (58人)、「市内」が46.3% (112人)、「市外」が11.2% (27人)であった。利用者の約75%は市内または町内から訪れていた。

(2) 利用の経緯について

①利用時期

利用の開始時期は、「1か月以内」が18.6% (45人)、「数か月前から」が11.2% (27人)、「半年くらい前から」が23.6% (57人)、「1年以上前から」が43.4% (105人)であった。利用者の約67%は半年以上前から利用していた。

②利用するきっかけ

利用のきっかけは、「友人・知人・家族に勧められて」が45.5% (110人)、「施設の前を通りかかって」が27.3% (66人)、「ホームページ・チラシ等を見て」が2.5% (6人)、「その他」が20.7% (50人)であった。「その他」には、「会員」や「(特養などの)入所施設の紹介」などがあげられている。利用者の約45%は友人の紹介をきっかけに利用していた。

③利用者の2回目の利用理由(複数回答)

二回目以降の利用理由については、「雰囲気気に入ったから」が63.7%(149人)、「スタッフが親切だから」は53.8%(126人)、「食事がおいしいから」は41%(96人)、「友人や他の利用者に会えるから」は25.6%(60人)、「その他」は10.7%(25人)が回答した。

(3) 利用状況

①利用頻度

利用の頻度は、「ほぼ毎日」が8.3% (20人)、「週に2~3日」が16.5% (40人)、「週末」が5.4% (13人)、「不定期」が58.4% (141人)、「その他」が7.4% (18人)である。「その他」には、

表1 属性の設問におけるカテゴリーの統合

	旧	→	新	N	%
利用頻度	ほぼ毎日	→	毎日	20	8.6
	週に2~3日	→	定期的	70	30.2
	週末	→			
	不定期	→	不定期	142	61.2
			計	232	100
年齢	10歳未満、10歳代	→	60歳未満	89	38.2
	20歳代、30歳代	→			
	40歳代、50歳代	→			
	60歳代、70歳以上	→	60歳以上	144	61.8
			計	233	100
家族構成	一人暮らし	→	一人暮らし	35	15.1
	夫婦のみ世帯	→	夫婦のみ世帯	57	24.6
	2世帯同居(親と子)	→	2世代以上、その他	140	60.3
	3世帯同居(親と子と孫)	→			
	その他	→			
			計	232	100
職業	自営業・自由業	→	職業有	121	52.4
	会社員・公務員等給与所得者	→			
	パート・アルバイト、主婦・主夫、学生	→			
	無職	→	無職	110	47.6
			計	231	100

「週1回」などがあげられている。利用者の約58%は利用の頻度が不定期であった。

②利用経路

施設までの移動手段は、「自分で来ている」は85.5% (207人)、「家族や近所の人に送ってもらっている」は5.8% (14人)、「送迎ボランティアに助けてもらっている」は2.1% (5人)、「他の利用者の車に乗せてもらっている」は4.6% (11人)であった。利用者の約86%は施設には自分で来ていた。

③滞在時間

利用する際の滞在時間は、「1時間くらい」が56.2% (136人)、「2～3時間くらい」が29.8% (72人)、「半日以上」が10.7% (26人)、「その他」が0.8% (2人)であった。利用者の約97%は1時間以上滞在していた。

④利用内容 (複数回答)

利用する際に行うことについては、「友人や他の利用者とおしゃべりする」は44.0% (103人)、「お昼ご飯を食べる」が43.2% (101人)、「スタッフとおしゃべりする」は41.9% (98人)、「その他」は29.1% (68人)、「講座などを受ける」は17.5% (41人)、「囲碁、手芸などの趣味活動」は6.0% (14人)が回答した。「その他」には、「コーヒーを

飲むため」や「駄菓子を食べる」などがあげられた。

⑤施設の利点 (複数回答)

施設の良いところについては、「楽しい時間が過ごせる」は74.8% (175人)、「おしゃべりができる」は53.8% (126人)、「友人ができる」は23.5% (55人)、「その他」は20.0% (47人)、「悩み事の相談ができる」は11.5% (27人)が回答した。

(4) 利用するようになって変化した内容

①利用後の周囲とのつながり (複数回答)

利用後の周囲とのつながりについては、「自分のことを気にかけてくれる人ができた」は36.8% (86人)、「一緒に趣味や地域活動をする友人が増えた」は33.8% (79人)、「家族との会話が増えた」は19.0% (44人)、「悩みを相談できる友人が増えた」は15.0% (35人)、「その他」は13.2% (31人)、「近所の人と以前より話すようになった」は10.3% (24人)が回答している。「その他」には、「友達と楽しい時間が過ごせる」などがあげられている。

②利用者自身の変化 (複数回答)

利用者自身の変化については、「前向きな気分になれた」は47.9% (112人)、「一人ではないと感じた」は35.9% (84人)、「いきがいが増えた」

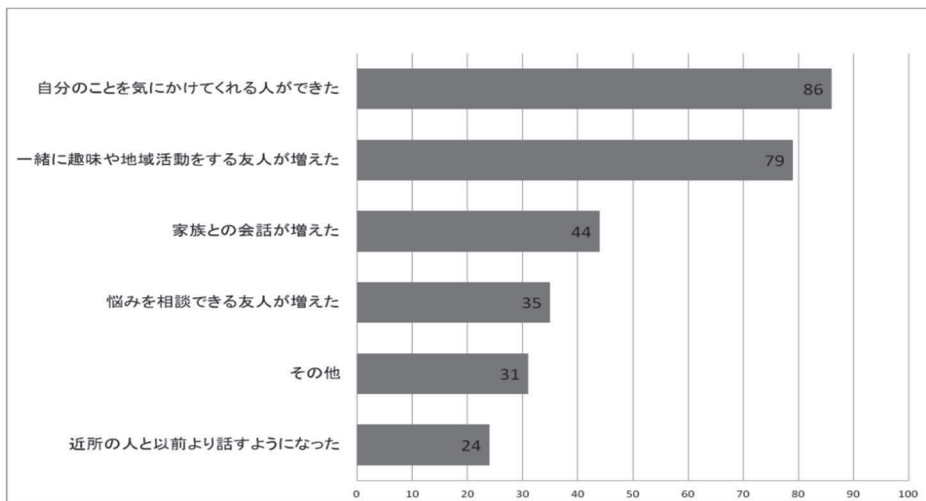


図1 利用後の周囲とのつながり

は33.8% (79人)、「その他」は17.5% (41人)、「おしゃれをするようになった」は14.5% (34人)、「悩み事が解決した」は9.8% (23人)が回答している。

(5) 施設以外に助けてもらっていること

①行政サービスの利用状況(複数回答)

行政サービスの利用状況については、「利用していない」は79.9% (187人)、「地域包括支援センター」は5.1% (12人)、「福祉事務所」は3.8% (9人)、「地域子育て支援センター」は3.4% (8人)が回答している。

②社会福祉協議会の事業の利用状況(複数回答)

社会福祉協議会の事業の利用状況については、「利用していない」が85.9% (201人)、「ふれあいいいきサロン」は3.0% (7人)、「その他」は1.7% (4人)、「移送サービス」は0.9% (2人)、「見守りサービス」は0.9% (2人)が回答している。

③その他の援助機関(複数回答)

その他の援助機関については、「特にない」は86.8% (203人)、「ボランティア」は3.8% (9人)、「その他」は0.9% (2人)、「他のNPOの事業」は0.4% (1人)が回答している。

(6) 属性ごとにみた利用状況と利用効果

①利用頻度からみた利用者の属性の比較

利用者の利用の頻度は、「不定期」が最も多く58.4% (141人)、次に「週に2~3日」が16.5% (40人)、「ほぼ毎日」が8.3% (20人)、「週末」が5.4% (13人)であり、利用者の約58%は利用の頻度が不定期であった。

また、利用者の利用頻度と属性の関係をみると、60歳未満の人にくらべ60歳以上、職業を持たない方、コミュニティカフェの近隣に住まれている方が毎日、もしくは定期的に来られている方の割合が多いことが分かった。

②滞在時間からみた利用者の属性の比較

利用者の利用する際の1回あたりの滞在時間は、「1時間くらい」が56.2% (136人)、「2~3時間くらい」が29.8% (72人)、「半日以上」が10.7% (26人)、「その他」が0.83% (2人)である。利用者の約97%は1時間以上滞在していた。

また、60歳以上、無職といった利用者の滞在時間は長いことが推察された。

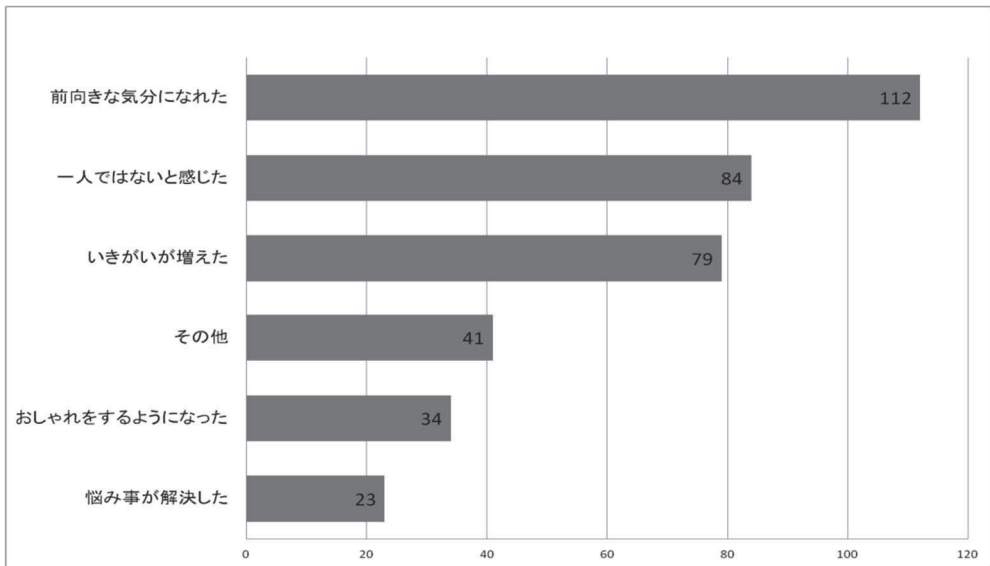


図2 利用者自身の変化

③利用頻度からみた利用者の利用経緯

どの利用形態においても、友人や知人、家族に勧められて利用する方の割合が多いことがわかった。一方、ホームページやチラシを見て利用しようと思った方の割合は少なく、今後、こうした形の広報の仕方を工夫する必要性が高いことが分かる。

④利用頻度からみた利用者の利用理由（2回目以降）

利用頻度からみた利用者の2回目以降の利用理由についてみると、毎日利用、定期的に利用されている方では、「雰囲気がいいから」という理由が最も割合が多い。

また、友人や他の利用者との関係性がよくなることが利用頻度の差を生む要因であることが推察

された。

⑤利用頻度からみた利用のメリット

利用頻度からみた利用者の利用のメリットについてみると、毎日利用、定期的に利用されている方では、「友人ができる」、「おしゃべりができる」「悩み事の相談」ができるという理由が不定期な利用者よりも割合が多く、人とのコミュニケーションをメリットとしていることが推察された。

⑥利用頻度からみた利用効果の違い

毎日利用している利用者や定期的に利用している利用者では、悩みを相談できる友人が増えた人、自分を気にかけてくれる人ができた人、いきがいが増加した人、おしゃべりになるようになった人の割合が不定期に利用者している人より多かった。

表2 利用頻度からみた利用者の属性の比較

利用頻度		毎日		定期的		不定期		合計		P
		N	%	N	%	N	%	N	%	
年齢	60歳未満	2	2.3	22	25.3	63	72.4	87	100	0.040*
	60歳以上	18	12.9	46	33.1	75	54.0	139	100	
	合計	20	8.8	68	30.1	138	61.1	226	100	
性別	男性	7	14.6	13	27.1	28	58.3	48	100	0.283
	女性	13	7.3	55	30.9	110	61.8	178	100	
	合計	20	8.8	68	30.1	138	61.1	226	100	
家族構成	一人暮らし	5	14.3	10	28.6	20	57.1	35	100	0.689
	夫婦のみ世帯	3	5.3	17	29.8	37	64.9	57	100	
	2世代以上	12	9.2	40	30.5	79	60.3	131	100	
	合計	20	9.0	67	30.0	136	61.0	223	100	
職業	職業有	3	2.6	31	27.2	80	70.2	114	100	0.000**
	無職	17	15.7	38	35.2	53	49.1	108	100	
	合計	20	9.0	69	31.1	133	59.9	222	100	
居住地	同じ町内会・小									0.015*
	中学区内	15	17.0	26	29.5	47	53.4	88	100	
	市内	5	4.7	31	29.0	71	66.4	107	100	
	市外	0	0.0	11	40.7	16	59.3	27	100	
	不明	0	0.0	2	20.0	8	80.0	10	100	
	合計	20	8.6	70	30.2	142	61.2	232	100	

*P<.05 **P<.01

表3 滞在時間からみた利用者の属性の比較

利用時間		1 時間以内		一時間以上		合計		P
		N	%	N	%	N	%	
年齢	60 歳未満	69	79.3	18	20.7	87	100	0.000**
	60 歳以上	63	45.0	77	55.0	140	100	
	合計	132	58.1	95	41.9	227	100	
性別	男性	34	70.8	14	29.2	48	100	0.049*
	女性	98	54.7	81	45.3	179	100	
	合計	132	58.1	95	41.9	227	100	
家族構成	一人暮らし	15	44.1	19	55.9	34	100	0.083
	夫婦のみ世帯	31	54.4	26	45.6	57	100	
	2 世代以上	87	64.0	49	36.0	136	100	
	合計	133	58.6	94	41.4	227	100	
職業	職業有	85	72.6	32	27.4	117	100	0.000**
	無職	47	43.1	62	56.9	109	100	
	合計	132	58.4	94	41.6	226	100	
居住地	同じ町内会・小							0.551
	中学区内	48	53.9	41	46.1	9	100	
	市内	69	63.3	40	36.7	89	100	
	市外	15	53.6	13	46.4	109	100	
	不明	5	55.6	4	44.4	28	100	
	合計	137	58.3	98	41.7	235	100	

*P<.05 **P<.01

表4 利用頻度からみた利用者の利用経緯

利用頻度		利用経緯				合計
		友人・知人・ 家族	施設の 前を通り	ホームペー ジ・チラシ	その他	
毎日	N	8	4	0	6	18
	%	44.4%	22.2%	0.0%	33.3%	100%
定期的	N	35	23	1	10	69
	%	50.7%	33.3%	1.4%	14.5%	100%
不定期	N	65	38	5	32	140
	%	46.4%	27.1%	3.6%	22.9%	100%
合計	N	108	65	6	48	227
	%	47.6%	28.6%	2.6%	21.1%	100%

⑦年齢からみた利用効果の違い

60歳以上の利用者では、一緒に趣味や地域活動をする友人が増えた人や自分のことを気にかけてくれる人ができた人、生きがいが増えた人、おしゃれになる、1人ではないと感じた人の割合が60歳未満の利用者より多かった。

⑧利用者の世帯構成の違いからみた利用効果の違い

一人暮らしの利用者では、悩みを相談できる友人が増えた人や自分を気にかけてくれる人ができた人、前向きな気分になれた人、1人ではないと感じた人の割合が他の世帯構成の利用者より多かった。

表5 利用頻度からみた利用者の利用理由（2回目以降）列集計

	利用頻度			合計	P		
	毎日	定期的	不定期				
雰囲気	非該当	N	4	24	55	83	0.250
		%	20.0%	34.3%	38.7%	35.8%	
	該当	N	16	46	87	149	
		%	80.0%	65.7%	61.3%	64.2%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
スタッフ	非該当	N	9	29	68	106	0.673
		%	45.0%	41.4%	47.9%	45.7%	
	該当	N	11	41	74	126	
		%	55.0%	58.6%	52.1%	54.3%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
友人・利用者	非該当	N	10	49	113	172	0,012*
		%	50.0%	70.0%	79.6%	74.1%	
	該当	N	10	21	29	60	
		%	50.0%	30.0%	20.4%	25.9%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
食事	非該当	N	11	31	94	136	0.009**
		%	55.0%	44.3%	66.2%	58.6%	
	該当	N	9	39	48	96	
		%	45.0%	55.7%	33.8%	41.4%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
その他	非該当	N	19	61	130	210	0.455
		%	95.0%	87.1%	91.5%	90.5%	
	該当	N	1	9	12	22	
		%	5.0%	12.9%	8.5%	9.5%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

*P<0.05 **P<0.01

表 6 利用頻度からみた利用のメリット列集計

			利用頻度			合計	P
			毎日	定期的	不定期		
友人ができる	非該当	N	13	46	119	178	0.006**
		%	65.0%	65.7%	83.8%	76.7%	
	該当	N	7	24	23	54	
		%	35.0%	34.3%	16.2%	23.3%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
悩み事の相談	非該当	N	15	59	131	205	0.035*
		%	75.0%	84.3%	92.3%	88.4%	
	該当	N	5	11	11	27	
		%	25.0%	15.7%	7.7%	11.6%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
おしゃべり	非該当	N	6	29	72	107	0.141
		%	30.0%	41.4%	50.7%	46.1%	
	該当	N	14	41	70	125	
		%	70.0%	58.6%	49.3%	53.9%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
楽しい時間	非該当	N	8	19	34	61	0.306
		%	40.0%	27.1%	23.9%	26.3%	
	該当	N	12	51	108	171	
		%	60.0%	72.9%	76.1%	73.7%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
その他	非該当	N	15	56	114	185	0.858
		%	75.0%	80.0%	80.3%	79.7%	
	該当	N	5	14	28	47	
		%	25.0%	20.0%	19.7%	20.3%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

*P<0.05 **P<0.01

表7 利用頻度からみた利用効果の違い（周囲とのつながり）列集計

			利用頻度			合計	P
			毎日	定期的	不定期		
友人の増加（趣味・地域活動）	非該当	N	14	42	99	155	0.350
		%	70.0%	60.0%	69.7%	66.8%	
	該当	N	6	28	43	77	
		%	30.0%	40.0%	30.3%	33.2%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
友人の増加（相談）	非該当	N	14	56	127	197	0.029*
		%	70.0%	80.0%	89.4%	84.9%	
	該当	N	6	14	15	35	
		%	30.0%	20.0%	10.6%	15.1%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
近所の人との会話の増加	非該当	N	18	64	128	210	0.952
		%	90.0%	91.4%	90.1%	90.5%	
	該当	N	2	6	14	22	
		%	10.0%	8.6%	9.9%	9.5%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
家族との会話の増加	非該当	N	16	54	119	189	0.494
		%	80.0%	77.1%	83.8%	81.5%	
	該当	N	4	16	23	43	
		%	20.0%	22.9%	16.2%	18.5%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
気にかけてくれる人の増加	非該当	N	6	38	102	146	0.000**
		%	30.0%	54.3%	71.8%	62.9%	
	該当	N	14	32	40	86	
		%	70.0%	45.7%	28.2%	37.1%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
その他	非該当	N	0	0	0	0	—
		%	.0%	.0%	.0%	.0%	
	該当	N	0	6	25	31	
		%	.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	合計	N	0	6	25	31	
		%	.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

*P<0.05 **P<0.01

表 8 利用頻度からみた利用効果の違い（利用者自身の変化）列集計

			利用頻度			合計	P
			毎日	定期的	不定期		
いきがい増加	非該当	N	11	40	106	157	0.017*
		%	55.0%	57.1%	74.6%	67.7%	
	該当	N	9	30	36	75	
		%	45.0%	42.9%	25.4%	32.3%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
悩み事の解決	非該当	N	18	61	130	209	0.601
		%	90.0%	87.1%	91.5%	90.1%	
	該当	N	2	9	12	23	
		%	10.0%	12.9%	8.5%	9.9%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
おしゃれをするように	非該当	N	15	50	133	198	0.000**
		%	75.0%	71.4%	93.7%	85.3%	
	該当	N	5	20	9	34	
		%	25.0%	28.6%	6.3%	14.7%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
前向きに	非該当	N	10	39	73	122	0.816
		%	50.0%	55.7%	51.4%	52.6%	
	該当	N	10	31	69	110	
		%	50.0%	44.3%	48.6%	47.4%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
一人ではない	非該当	N	12	44	93	149	0.856
		%	60.0%	62.9%	65.5%	64.2%	
	該当	N	8	26	49	83	
		%	40.0%	37.1%	34.5%	35.8%	
	合計	N	20	70	142	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
その他	非該当	N	0	0	0	0	—
		%	.0%	.0%	.0%	.0%	
	該当	N	4	9	26	39	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	合計	N	4	9	26	39	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

*P<0.05 **P<0.01

表9 年齢からみた利用効果の違い（周囲とのつながり）

					合計	P
			非該当	該当		
友人の増加（趣味・地域活動）	60歳未満	N	70	19	89	0.006**
		%	78.7%	21.3%	100.0%	
	60歳以上	N	88	56	144	
		%	61.1%	38.9%	100.0%	
	合計	N	158	75	233	
		%	67.8%	32.2%	100.0%	
友人の増加（相談）	60歳未満	N	81	8	89	0.059
		%	91.0%	9.0%	100.0%	
	60歳以上	N	118	26	144	
		%	81.9%	18.1%	100.0%	
	合計	N	199	34	233	
		%	85.4%	14.6%	100.0%	
近所の人との会話の増加	60歳未満	N	82	7	89	0.815
		%	92.1%	7.9%	100.0%	
	60歳以上	N	130	14	144	
		%	90.3%	9.7%	100.0%	
	合計	N	212	21	233	
		%	91.0%	9.0%	100.0%	
家族との会話の増加	60歳未満	N	61	28	89	0.000**
		%	68.5%	31.5%	100.0%	
	60歳以上	N	130	14	144	
		%	90.3%	9.7%	100.0%	
	合計	N	191	42	233	
		%	82.0%	18.0%	100.0%	
気にかけてくれる人の増加	60歳未満	N	72	17	89	0.000**
		%	80.9%	19.1%	100.0%	
	60歳以上	N	76	68	144	
		%	52.8%	47.2%	100.0%	
	合計	N	148	85	233	
		%	63.5%	36.5%	100.0%	
その他	60歳未満	N	0	17	17	—
		%	.0%	100.0%	100.0%	
	60歳以上	N	0	14	14	
		%	.0%	100.0%	100.0%	
	合計	N	0	31	31	
		%	.0%	100.0%	100.0%	

*P<0.05 **P<0.01

表10 年齢からみた利用効果の違い（利用者自身の変化）

					合計	P
			非該当	該当		
いきがい増加	60歳未満	N	72	17	89	0.001*
		%	80.9%	19.1%	100.0%	
	60歳以上	N	86	58	144	
		%	59.7%	40.3%	100.0%	
	合計	N	158	75	233	
		%	67.8%	32.2%	100.0%	
悩み事の解決	60歳未満	N	83	6	89	0.358
		%	93.3%	6.7%	100.0%	
	60歳以上	N	128	16	144	
		%	88.9%	11.1%	100.0%	
	合計	N	211	22	233	
		%	90.6%	9.4%	100.0%	
おしゃれをするように	60歳未満	N	83	6	89	0.007**
		%	93.3%	6.7%	100.0%	
	60歳以上	N	116	28	144	
		%	80.6%	19.4%	100.0%	
	合計	N	199	34	233	
		%	85.4%	14.6%	100.0%	
前向きに	60歳未満	N	52	37	89	0.281
		%	58.4%	41.6%	100.0%	
	60歳以上	N	73	71	144	
		%	50.7%	49.3%	100.0%	
	合計	N	125	108	233	
		%	53.6%	46.4%	100.0%	
一人ではない	60歳未満	N	65	24	89	0.048*
		%	73.0%	27.0%	100.0%	
	60歳以上	N	86	58	144	
		%	59.7%	40.3%	100.0%	
	合計	N	151	82	233	
		%	64.8%	35.2%	100.0%	
その他	60歳未満	N	0	19	19	—
		%	.0%	100.0%	100.0%	
	60歳以上	N	4	20	20	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	
	合計	N	4	39	39	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	

*P<0.05 **P<0.01

表11 利用者の世帯構成の違いからみた利用効果の違い（周囲とのつながり）列集計

			家族構成			合計	P
			一人暮らし	夫婦	2世帯以上		
友人の増加（趣味・地域活動）	非該当	N	26	35	96	157	0.412
		%	74.3%	61.4%	68.6%	67.7%	
	該当	N	9	22	44	75	
		%	25.7%	38.6%	31.4%	32.3%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
友人の増加（相談）	非該当	N	27	51	119	197	0.276
		%	77.1%	89.5%	85.0%	84.9%	
	該当	N	8	6	21	35	
		%	22.9%	10.5%	15.0%	15.1%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
近所の人との会話の増加	非該当	N	31	51	129	211	0.729
		%	88.6%	89.5%	92.1%	90.9%	
	該当	N	4	6	11	21	
		%	11.4%	10.5%	7.9%	9.1%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
家族との会話の増加	非該当	N	32	48	108	188	0.122
		%	91.4%	84.2%	77.1%	81.0%	
	該当	N	3	9	32	44	
		%	8.6%	15.8%	22.9%	19.0%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
気にかけてくれる人の増加	非該当	N	14	37	95	146	0.009**
		%	40.0%	64.9%	67.9%	62.9%	
	該当	N	21	20	45	86	
		%	60.0%	35.1%	32.1%	37.1%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
その他	非該当	N	0	0	0	0	—
		%	.0%	.0%	.0%	.0%	
	該当	N	5	6	19	30	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	合計	N	5	6	19	30	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

*P<0.05 **P<0.01

表12 利用者の世帯構成の違いからみた利用効果の違い（利用者自身の変化）列集計

			家族構成			合計	P
			一人暮らし	夫婦	2世帯以上		
いきがい増加	非該当	N	25	34	96	155	0.396
		%	71.4%	59.6%	68.6%	66.8%	
	該当	N	10	23	44	77	
		%	28.6%	40.4%	31.4%	33.2%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
悩み事の解決	非該当	N	31	54	124	209	0.401
		%	88.6%	94.7%	88.6%	90.1%	
	該当	N	4	3	16	23	
		%	11.4%	5.3%	11.4%	9.9%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
おしゃれをするように	非該当	N	28	49	122	199	0.556
		%	80.0%	86.0%	87.1%	85.8%	
	該当	N	7	8	18	33	
		%	20.0%	14.0%	12.9%	14.2%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
前向きに	非該当	N	14	31	79	124	0.216
		%	40.0%	54.4%	56.4%	53.4%	
	該当	N	21	26	61	108	
		%	60.0%	45.6%	43.6%	46.6%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
一人ではない	非該当	N	16	42	92	150	0.022*
		%	45.7%	73.7%	65.7%	64.7%	
	該当	N	19	15	48	82	
		%	54.3%	26.3%	34.3%	35.3%	
	合計	N	35	57	140	232	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
その他	非該当	N	0	0	0	0	—
		%	.0%	.0%	.0%	.0%	
	該当	N	6	8	25	39	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	合計	N	6	8	25	39	
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

*P<0.05 **P<0.01

4. まとめ

本研究では、常設型の「居場所」を利用している利用者の利用実態の結果から、「居場所」の利用者の特色と利用効果について明らかにしたものである。

主な特徴として、第一に、常設型居場所は、不定期な利用者が利用可能なことがメリットとして挙げられる。今回調査した利用者の利用の頻度は、「不定期」が最も多く58.4%（141人）、次に「週に2～3日」が16.5%（40人）、「ほぼ毎日」が8.3%（20人）、「週末」が5.4%（13人）であり、利用者の約58%は利用の頻度が不定期であった。このことから、いつでも都合の良いときに利用できる常設型居場所の良さが明らかになった。

また、滞在時間は「1時間くらい」が56.2%（136人）、「2～3時間くらい」が29.8%（72人）、「半日以上」が10.7%（26人）とまちまちであることから、自分の都合にあわせて滞在時間を選べる常設型居場所の良さが発揮されているといえる。

これは、既存のインフォーマルな福祉サービスの多くは、定期的な時間と場所を指定し、実施されるものが多く、利用者の範囲や利用頻度などに制限がかかるものが多いが、常設型の居場所の場合、自分の都合や気分に応じて、利用を意思決定できることにより自然な形で自らの生活の中に取り入れることができる。今後より多くの地域住民が参加することができるインフォーマルなサービスとしては、フレキシブルな滞在時間が可能なことといった自由に利用できる利便性が求められる。

第二に、居場所を利用する利用者自身の効果としては、「自分のことを気にかけてくれる人ができた」、「一緒に趣味や地域活動をする友人が増えた」、「友達と楽しい時間が過ごせる」といった反応を示す利用者が多かった。これは、居場所を利用することによって、自分のことを気にかけてくれる人ができたと感じている利用者が多く、交流を基に利用者自身の精神的な部分の支えを得ている状況がうかがえ、まさに社会的孤立を防ぐ効果を示しているといえる。

また、さらに興味深いのは「家族との会話が增えた」、「悩みを相談できる友人が増えた」、「近所の人と以前より話すようになった」といった変化を示した利用者も多く、居場所を利用ようになることで、直接には居場所と関係がないと思われる家族や近隣住民にも居場所に関する話題を提供することにより、他者とのコミュニケーションをより多くとる効果を示しているといえる。居場所を通じて、周囲とのつながりを強める効果があるとすれば、家族関係や近隣関係の希薄化などと人々の意識の変化が相まって、地域での支え合いも弱まっている中で、居場所が果たす役割への期待は大きいといえる。

また、利用者自身の変化については、高齢でよく利用する高齢者で、「前向きな気分になれた」、「一人ではないと感じた」、「いきがいが増えた」、「おしゃれをするようになった」、「悩み事が解決した」と感じた人が多いのは、利用者の孤立感を解消し、社会的孤立を防ぐ効果を示しており、また、前向きな気分になったり、いきがいが増えた人も多いのは、人間関係の喪失による抑うつ状態を防ぐ効果があることも示唆している。

5. 今後の課題

2025年に向けて、ますます独居高齢者や高齢者世帯のみの家庭が増えていくことが予想されるが、本調査における居場所の利用者も約6割は高齢者であり、2割が一人暮らしであることから、居場所の利用者についても、さらにこうした利用者が増えることが予想される。当然、居場所が今後これらの独居高齢者の相談の場や生活支援の窓口になることも考えられ、こうした利用者のニーズに答えるためにも、居場所は様々な関係機関との連携をとる必要がある¹²⁾。調査の結果からも居場所の利用者に関しては、他の行政サービスや社会福祉協議会などのサービスなどは利用していない場合が多く、利用者にとっては居場所を悩みごとの相談場所と重要視している傾向もみられ、地域の関連機関と連携し利用者の日常生活をサポートするなど、地域におけるセーフティネットの窓

口として機能することが求められる。

例えば、地域包括支援センターは、本来地域の高齢者の様々な相談窓口として機能しているはずであるが、まだ住民の身近な存在であるとは言いがたい。特に、未だ比較的健康な高齢者は、普段から地域包括支援センターと接する機会は少なく、支援が必要となってから、初めて窓口として利用することが多い¹³⁾。しかし、支援が必要になる前から様々な問題を抱えている場合や支援が必要になった場合にどうすればよいのかといった内容に対して情報を得る場合は、早期に相談する必要がある。

こうした場合にも、居場所が地域包括支援センターと連携をとることにより、居場所自体がインフォーマルサービスの提供体制として一つの窓口機能を持つことができれば、より多くの独居高齢者のモニターを行うことができると考えられる。また、居場所をきっかけに利用者の地域での諸活動が活性化することも考えられることから、こうした活動を支える拠点としての役割を確立することが重要であるが、利用者の7割以上が女性であり、高齢者の利用が多いといったように、いつでも誰でも来られるという居場所ではなく、決まった層の利用者が来ているという現実もある¹⁴⁾。

今後は、男性や子供、若者といった様々な世代が利用することが求められるが¹⁵⁾、こうした方々が利用しやすいイベントの企画や交流の機会などを設け、より多くの世代間交流の場として機能する必要がある。

6. 参考文献

- 1) 内閣府：平成27年版高齢社会白書
- 2) 国立社会保障・人口問題研究所：日本の世帯数の将来推計(全国推計) 2013年1月
- 3) 藤本健太郎：孤立社会からつながる社会へ—ソーシャルインクルージョンに基づく社会保障改革—ミネルヴァ書房2012
- 4) 内閣府：「平成21年度 高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査結果」
- 5) 平成21年度老人保健健康増進等事業、平成21年度地域包括ケア研究会報告書、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、平成22年4月26日
- 6) 「社会保障制度改革国民会議 報告書(概要)～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～平成25年8月6日」
- 7) 高橋紘士：地域包括ケアシステム オーム社 2012
- 8) 内閣府：「高齢社会対策の大綱」平成24年9月7日
- 9) 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)「高齢者の居場所と出番に関する事例調査 調査報告書 概要版」(平成24年3月)内閣府：平成24年度 団塊の世代の意識に関する調査結果(概要版)
- 10) 内閣府：平成20年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果
- 11) 内閣府・経済社会総合研究所：コミュニティ機能再生とソーシャルキャピタルに関する研究2005
- 12) 太田貞司編：地域包括ケアシステム その考え方と課題. 光生館, 2011.
- 13) 平成20年度老人保健健康増進等事業、平成20年度地域包括ケア研究会報告書～今後の検討のための論点整理、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、平成21年5月
- 14) 藤本健太郎編著：「ソーシャルデザインで社会的孤立を防ぐ」ミネルヴァ書房2014
- 15) 広井良典：「コミュニティを問いなおす」ちくま新書2009

Research on the present condition of "Ibasyo" in local community

Sadanori HIGASHINO

Associate professor, University of Shizuoka, Graduate school of Management and Information

Kentaro FUJIMOTO

Associate professor, University of Shizuoka, Graduate school of Management and Information

Abstract:

In this study, "Ibasyo" is how used is, what to play a role or were analyzed the actual survey data of users who are using "Ibasyo", and to clarify the role and importance of the "Ibasyo", and in the future. Specifically, for those who have been utilized a permanent-type "Ibasyo", what kind of effect the "Ibasyo", if How In order to promote a permanent-type "Ibasyo" , we have to clarify the role of the "Ibasyo" sought future.

In survey data of a user who has been utilized within four places of permanent-type "Ibasyo" in Shizuoka. (242 people).

The results of the study : Many users, it has been a place to consult, there is a need for the ability to support the daily life of users in cooperation with relevant organizations in the region.

In addition, the function of the consultation in the region has been demanded.

Since whereabouts is considered to activate various activities in the region of local residents, that establishing a role as a base to support these activities are important.

Key words: local community, Ibasyo